



日本貿易振興機構アジア経済研究所業績評価委員会
(2025年度分評価)

実施結果

日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所

2026年6月

- 1. アジア経済研究所外部業績評価の概要 p. 3
- 2. 外部業績評価の結果 p. 8

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

外部業績評価を実施する背景

- アジア経済研究所は、国立研究開発法人に準じた形で評価を実施。
- 評価軸 2 および 3 は、アジア経済研究所業績評価委員会からの総合評価を受けることとしている。

第 6 期中期目標（アジ研部分 抜粋）

学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献

評価軸（1）による評価

アジア経済研究所は、学術研究によって蓄積された研究資源を活用し、効果的かつ効率的な幅広いアウトリーチ活動を通じて、我が国の政策担当者や産業界、メディア並びに国民各層、更には新興国・途上国地域の政府、産業界、市民社会等にも幅広く積極的に研究成果を還元し、我が国企業の貿易投資の拡大並びに我が国政府の通商政策立案の基盤となる質の高い分析と情報を提供する。

政策立案への貢献に当たっては、新興国・開発途上国地域の動向や経済・社会課題等に関する政策課題について、世界水準の学術研究に基づき政策担当者の理解の促進・深化に寄与するほか、現時点で顕在化していない中長期的な政策課題にもなり得るアジェンダを提示することなどにより、政策立案への広範な貢献を果たす。

アジ研業績評価委員会による評価対象

付加価値の高い学術研究成果の創出と蓄積

評価軸（2）による評価

アジア経済研究所は、前項に示した「学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献」を実現するため、新興国・開発途上国地域を中心とした政治・経済・社会情勢等についての中長期的かつ革新的な視点に立った分析を通じて、大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な研究活動を実施し、世界の公共財となり得る付加価値の高い研究成果の創出と良質な研究資源の蓄積を行う。

研究活動の実施に当たっては、高い専門性をもつ多様な研究者の集積という強みと学術研究ネットワークを最大限に活用し、国際的な政治・経済・社会秩序の急速な変容や技術革新がもたらす産業構造や企業行動の変化並びにこれらが我が国を含めた国際社会に与える影響等について、国・地域・分野を横断した研究を行う。また、人権や環境など持続可能性や包摂性の追求が問われる地球規模の課題について、我が国の国益に資するのみならず、世界の発展への貢献に繋がる研究成果を創出する。

アジ研業績評価委員会による評価対象

国際的な研究ハブ機能と学術情報プラットフォーム機能の発揮

評価軸（3）による評価

アジア経済研究所は、上記目標の実現と世界への知的貢献を行うため、国際的な研究ハブとしての機能を強化する。具体的には、国際機関や国内外の第一級の研究機関・研究者等と連携した学術研究活動を推進するとともに、国内外の卓越した研究人材の活用や開発途上国地域の人材育成を通じて、研究ネットワークを深化・拡充させる。また、図書館の資料情報基盤整備や情報発信機能の強化を通じて、新興国・開発途上国地域に関する学術研究の知的基盤をなす公共財として、学術情報プラットフォーム機能を発揮する。

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

評価軸、評価/モニタリング指標

- アジア経済研究所業績評価委員会による評価結果は、モニタリング指標の一つ。
- 評価軸（２）、（３）ともに、アジ研業績評価委員会による総合評価を踏まえてジェトロが自己評価のうえ、経済産業大臣へ提出。

アジア経済研究所の評価軸と指標（抜粋）

（２）大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか

評価指標	具体的な先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果の創出状況
モニタリング指標	誌上、ウェブサイト上または口頭での論文発表件数
	創出された研究成果の外部評価（アジア経済研究所業績評価委員会による総合評価）

（３）国際的な研究ハブ機能ならびに学術情報プラットフォームとしての機能を発揮しているか

評価指標	新たに形成した又は維持している学術ネットワークの量と質
	学術情報センター等における学術情報の蓄積と運用状況および活用状況
モニタリング指標	国際学会・国際会議等への参加数および招待講演数
	研究所が主催・共催・参画した国際会議等の開催数
	実施した学術ネットワーク活動の外部評価（アジア経済研究所業績評価委員会による総合評価）
	学術情報・データ蓄積等の発信（掲載）・アクセス件数・ダウンロード件数

(参考) モニタリング指標実績一覧

- 評価軸（２）（３）にかかるモニタリング指標の実績は以下のとおり。

評価軸および指標	2025年度	(2024年度)
評価軸（２）大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか		
誌上・ウェブサイト上または口頭での論文発表件数	569件	(494件)
創出された研究成果の外部評価（業績評価委員会による総合評価）	4.8点	(4.95点)
	定性的評価	(定性的評価)
評価軸（３）国際的な研究ハブ機能ならびに学術情報プラットフォームとしての機能を発揮しているか		
国際学会・国際会議等への参加数および招待講演数	181件	(210件)
研究所が主催・共催・参画した国際会議等の開催数	23件	(21件)
実施した学術ネットワーク活動の外部評価（業績評価委員会による総合評価）	定性的評価	(定性的評価)
学術情報・データ蓄積等の発信（掲載）・アクセス件数・ダウンロード件数	318万件	(243万件)

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

アジ研 業績評価にかかるスケジュール

時期	内容
2025年12月 ～ 2026年3月	専門委員による論文等の評価
2026年4月	アジ研業績評価委員会の開催 ※評価を頂くための研究所からの説明の場 ↓
2026年5月	業績評価委員による評価票の記載 研究所にて評価票の集約・とりまとめ ↓ 業績評価委員会の評価を踏まえ、ジェトロ全体の法人評価（自己評価）の作成
2026年6月	ジェトロ全体の法人評価（自己評価）の確定 ↓ 6月末までに法人評価（自己評価）を経済産業大臣に提出
2026年8月	経済産業大臣による評価確定
2026年9月	法人評価結果の公表

アジ研 業績評価委員会 委員一覧

氏名	ご所属
大庭 三枝	神奈川大学法学部 教授
梶谷 懐	神戸大学大学院経済学研究科 教授
重富 真一	明治学院大学国際学 教授
杉木 明子	慶応義塾大学法学部 教授
高木 佑輔	政策研究大学院大学 准教授
戸堂 康之	早稲田大学政治経済学術院 教授
中西 久枝	同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 教授

（五十音順、敬称略）

2. 外部業績評価の結果

2. 外部業績評価の結果

専門委員による研究成果物の評価結果（5点満点）

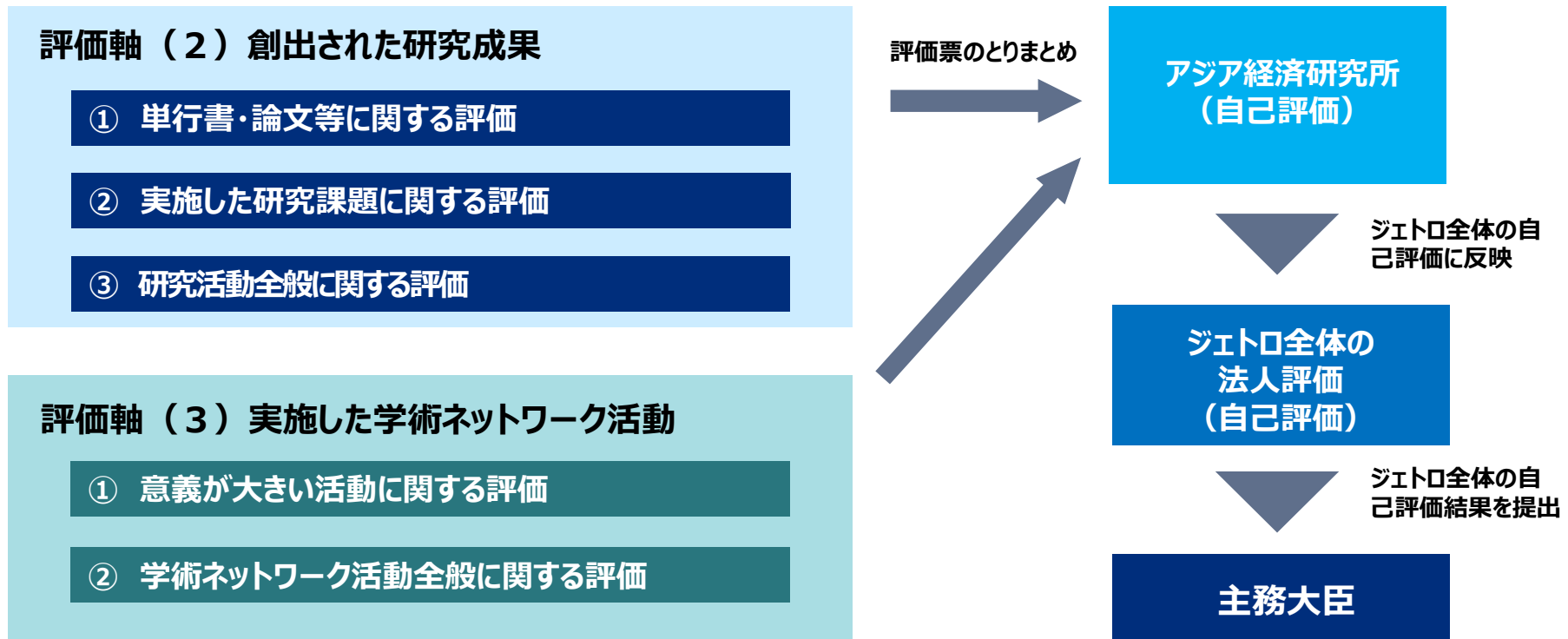
- 刊行された書籍・論文のうち以下の11点を対象に、それぞれ2名の専門委員が評価を実施。
- 外部専門委員による総合評価の平均は4.8点。

	単行書または論文名	種別	総合	総合平均
1	東方孝之、川村 晃一編著「岐路に立つインドネシア——ジョコウィ政権の評価とプラボウォ新政権の課題——」2025 年12月、アジア経済研究所	単行書	4.4 5	4.7
2	今泉慎也、平井佐和子、大友有著「タイの刑事司法制度とその動態」2026年3月、アジア経済研究所	単行書	4.4 5	4.7
3	山田美和編著「ビジネスと人権——グローバルトレンドとアジア——」2025 年12月、アジア経済研究所	単行書	4 5	4.5
4	YAMAOKA, Kanako; GARCIA, Gabriel. "Japan and Latin America and the Caribbean: Working Together in a New Indo-Pacific", Edward Elgar, 2026.	単行書	5 4	4.5
5	HAZAMA, Yasushi, "The Dynamics of Dominance in Erdogan's Turkey: The Politics of Attraction", Edward Elgar, 2026.	単行書	5 5	5.0
6	DOI, Kaito. 2026. "Conceptualizations of Happiness Among University Youth in Uzbekistan." <i>Journal of Cross-Cultural Psychology</i> 57 , no. 1: 51-78.	論文	5 5	5.0
7	ANDO, Mitsuyo; HAYAKAWA, Kazunobu; KIMURA, Fukunari; MUKUNOKI, Hiroshi. 2026. "Friend-shoring, near-shoring, and reshoring in factories America, Asia, and Europe amid rising geopolitical tensions." <i>European Journal of Political Economy</i> , 93 : 102804.	論文	5 5	5.0
8	KIKUTA, Kyosuke. 2026. "Claimability in International Relations: Oil Discoveries, Territorial Claims, and Interstate Conflicts." <i>American Political Review</i> : 1-26.	論文	5 5	5.0
9	MATSUMOTO, Tomoya; NAGASHIMA, Masaru; KAGAYA, Wataru; OKOMO, Gordon; KONGERE, James; OGINGA, Jared; OPIYO, Victor; GITAKA, Jesse; KANEKO, Akira. 2025. "The second-round evaluation of financial incentives on malaria prevalence in the Lake Victoria Basin, Kenya: updated study protocol for a cluster-randomized controlled trial." <i>Trials</i> , 26 , no. 1: 426.	論文	4 5	4.5
10	NIKIEMA, Apollinaire. 2025. "Intrahousehold Inequality, Economies of Scale, and Poverty: Evidence from Eight Harmonised Living Standard Measurement Surveys Data in West Africa." <i>Journal of Development Studies</i> , 61 , no. 10: 1683-1708.	論文	5 5	5.0
11	山田七絵(2025).「日本農業における外国人雇用経営の特徴——移住仲介組織とスキル形成機能に着目して——」アジア経済、第66 巻、3 号、30-66.	論文	5 4	4.5

総合評価平均 = 4.8

2. 外部業績評価の結果

- 評価軸（２）「創出された研究成果」および評価軸（３）「実施した学術ネットワーク活動」について、各業績評価委員の評価を集約。



評価軸（2）創出された研究成果（研究活動全般に関する評価）

- 研究所の研究は極めて多彩で、ひとつひとつが高い成果を生んでいる。
- 非常にバラエティに富んだ研究活動・研究成果が継続して行われていることは特筆すべき点だと言ってよい。
- 研究員の方々は、各研究分野において非常に多くの重要な研究を進めており、研究成果をあげ、国内外への発信を積極的に展開している。よって本研究所の研究能力や発信力の高さについて大いに評価している。
- 多様なディシプリンから様々なテーマに基づく研究が行われ、地域や分野を横断した共同研究がすぐれた成果を収めている。
- 大学では実施し難い長期的な視野に立った研究を実施できていると評価できる。
- 研究成果を分かりやすくまとめた英文コラムが掲載されているIDE Research Columnsや開発途上国の時事問題や社会事情、文化などを解説する IDEスクエアなどは、開発途上国に関心がなかった人達に対するアウトリーチとしても有用である。
- 研究成果がウェブ上でアクセスできること、また多くがオープンアクセスになっていることも、研究所としての独自の活動として非常に重要だと考える。
- 研究所の国内及び世界でのコンピテンシーは上がってきたと言える。
- 『アジア動向年報』、『ラテンアメリカ・レポート』、そして『アフリカ・レポート』などのように、地域研究者による特定地域についての定点観測の継続は、大変貴重な仕事といえる。
- 査読付き英文学術誌掲載論文のうち、37%が入所5年以内の研究者によるものであり、（略）多くの若手研究者の活躍が目立った。

評価軸（2）創出された研究成果（実施した研究課題に関する評価）

77件の研究課題のうち、特に実施する意義を高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究課題と評価コメント

	研究課題名	業績評価委員による主な評価コメント
①	『文化の実証分析：文化が人々の行動や意識、主観的厚生に与える影響』	地域研究の文脈に『文化』『価値観』という分析軸を明示的に組み込むことで、今後の政治・経済を中心とした地域研究とより人文学的な知の融合の可能性を切り開いた点が高く評価できる。
②	『アフターコロナ期の国際労働力移動』	移民政策、国際労働移動者の諸権利といった課題を検討する上でも、国際労働移動に伴うグローバル経済の現状を理解する上でも有益な研究だと評価できる。
③	『新興アジア諸国における文化資本と社会階層』	ピアノという文化資本を取り上げて社会科学の視点から分析しようと試みる本研究会は、<u>アジア研の研究会の中でも異彩を放っている。</u>
④	『近現代中央アジアの水利用管理とサステナビリティ』	中央アジアにおける水利行政に関する研究は日本のみならず海外でもあまり進んでいない。<u>本課題は、環境行政とその持続性という重要な視点からの実証研究である。</u>
⑤	『アジア諸国の動向分析』	<u>日本社会におけるアジア理解へ多大な貢献をなしている点でその意義を高く評価すべきである。</u>
⑥	『経済地理シミュレーションモデル（IDE-GSM）』	アジア地域における人口と産業の地理的分布についての長期予測という<u>ユニークなモデルの開発及び応用を行うこの研究を高く評価する。</u>

評価軸（2）創出された研究成果（単行書・論文等に関する評価）

研究成果物のうち、高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究成果物と評価コメント

『ビジネスの人権——グローバルトレンドとアジア』

山田美和 編(アジア経済研究所)
2025年12月刊行

内容紹介

国家や企業の活動による人権侵害が世界的な問題になるにつれ注目されている「ビジネスと人権」。最大の課題は「ガバナンス・ギャップ」にある。国境を越える経済活動がもたらす人権への負の影響を、投資する先進国、投資される途上国ともに制御できていないのである。その解消をめざして創案された「ビジネスと人権に関する国連指導原則」は、2011年の成立を経て現在、いかに展開されているのか。

本書では、政策の変化、人権と環境 이슈の接近、条約化の進捗といったグローバルトレンドを追跡する。その上で、グローバルサウスと呼ばれ国際的な影響力を高める途上国、とくに東南アジアにおいて指導原則の理念がいかに実装されているのか、その実態を探る。「ビジネスと人権」研究は、さまざまなディシプリンとアプローチ、理論と政策と実務とが必要とされる。アカデミアはもちろん、政策立案者、企業、そして市民の多くの方々に読んでいただきたい。

業績評価委員による評価コメント

- 欧米的な人権概念をベースにしながらも『東南アジアにおける独自の取り組み』に焦点を当てている点が高く評価できる。
- 東南アジア各国において、政府および非政府アクターも関与しつつ紆余曲折を経ながらも労働者の権利保障の取り組みがなされていることは、この地域に進出している日系企業関係者にも十分理解、認識する必要があり、その点で社会的貢献度も大きい成果である。
- 万博のような大規模イベントの運営改善に結びつけている点を評価したい。

評価軸（2）創出された研究成果（単行書・論文等に関する評価）

研究成果物のうち、高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究成果物と評価コメント

『岐路に立つインドネシア——ジョコウィ政権の評価とプラボウォ新政権の課題——』

東方孝之、川村晃一編(アジア経済研究所)
2025年12月刊行

内容紹介

2024年10月、インドネシアでは10年ぶりの政権交代がみられた。大統領であったジョコ・ウィドド（ジョコウィ）が二期10年の任期を全うし、プラボウォ・スビアントが新大統領に就任した。この政権交代にあわせて、本書では大きく3つの視点からインドネシアの分析を試みている。まず、ジョコウィ政権の評価である。ここでは政治や経済、市民社会、外交、そして環境問題への取り組みといったトピックを取り上げている。つぎに、2024年2月に実施された国会議員選挙と大統領選挙における選挙運動や投票行動、そして選出された国会議員の特徴の分析である。最後に、プラボウォ新政権の特徴の解明である。以上の分析を通じて、本書は、現在および今後のインドネシアの動向を探る際に必要となる視座を提供する。

業績評価委員による評価コメント

- インドネシア政治の安定性を多面的かつ実証的に論じた点が、インドネシア政治研究上、世界的な水準にあると評価できる。
- 日本を代表するインドネシア研究者たちを集め、政治、経済、社会と外交などについて、多角的に考察していることを評価したい。
- こうした一国研究というのは、アジ研がこれまでも得意としてきたところで、とくにインドネシアはその蓄積がすばらしい。これができるのは研究員の日常的な議論と外部研究者との広汎なネットワークがあるからである。その点で、アジ研ならではの、大学等では真似のできない研究成果と言える。

評価軸（2）創出された研究成果（単行書・論文等に関する評価）

研究成果物のうち、高く評価できるものとして複数の業績評価委員が挙げた研究成果物と評価コメント

Claimability in International Relations: Oil Discoveries, Territorial Claims, and Interstate Conflicts

論文タイトル：

Claimability in International Relations: Oil Discoveries, Territorial Claims, and Interstate Conflicts

著者：

Kikuta, Kyosuke

掲載ジャーナル名：

Economic Development and Cultural Change

業績評価委員による評価コメント

- 紛争研究や国際関係論における理論的な研究に貢献するだけでなく、政策的な含意も多く、実務的に寄与するものとして高く評価したい。
- 戦争という誰にとっても重要な問題をテーマとし、新たな概念を構築し、必要なデータセットを整理することで、政治学分野に世界的な貢献をしている。さらに政策的含意のある考察としても高く評価できる。

Conceptualizations of Happiness Among University Youth in Uzbekistan

論文タイトル：

Conceptualizations of Happiness Among University Youth in Uzbekistan

著者：

Doi, Kaito

掲載ジャーナル名：

Journal of Cross-Cultural Psychology

業績評価委員による評価コメント

- 中央アジアを対象とした地域研究の文脈において、「文化」「幸福」という分析軸を明示的に組み込み、精緻な分析を行った点が評価できる。
- 実態に迫る研究が極めて希薄な中央アジアの新興国ウズベキスタンに着目し、地道な現地調査に基づいて研究された点（略）などが評価できる。

評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（学術ネットワーク活動全般に関する評価）

- 「総じて、アジア経済研究所は、日本や新興国が直面する事象や諸問題を理解し、対処ために信頼性の高い知識を提供しており、2025年度において国際的な研究ハブ機能と学術的プラットフォーム機能の発揮という目標を達成している」
- 「国際的なネットワーク構築を国際会議やワークショップ、共同研究等を通じて積極的にやっている」
- 「アジア経済研究所がグローバルサウスとさまざまな形で連携を行っていることは高く評価したい」
- アジア経済研究所図書館のアジア情報研修が所蔵コレクションを社会的ニーズに応じて公開・発信する上で重要な人材育成事業である
- 学部生・院生に対する見学ツアー、近隣の中高生向け企画などの取組みが研究の裾野を広げる上で重要である
- RINやERIAなど制度化されたネットワークを持っていることは強みであるが、ERIA以外の研究機関とのネットワークリングも積極的に取り組むとよい

評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

「ビジネスと人権」：マルチステークホルダーとの協働

- **大阪・関西万博開催期間中**に関西地域の企業が実効性のある人権デューデリジェンスへの取り組みを高めることを目的に大阪でセミナーを開催。**近畿経済産業局長より来賓挨拶**をいただいた。登壇者は経済産業省ビジネス・人権政策調整室長のほか、製造業、金融、商社の分野でサステナビリティの推進に取り組む民間企業の担当者。**アジ研からは山田美和上席主任調査研究員（博覧会協会持続可能性有識者委員会委員）**が登壇し、万博における持続可能性の取組の紹介と企業活動への示唆について講演した。
- **タイ・バンコクでは「気候変動危機をテーマに人権デュー・ディリジェンスの実践」**に関する、日系企業向け実践型セミナーを開催。気候変動対策として再生可能エネルギーへの転換が急がれる状況の中、気候変動において企業が果たすべき役割に焦点を当て、ディスカッション、ワークショップを実施。

業績評価委員による評価コメント

- ・ 研究成果を著作としてまとめるのみならず、万博等の社会的関心の高いイベントの運営改善に結びつけるなど、成果を多様な関係者と共有した点を評価したい。
- ・ アジ研がこれまで行ってきた研究成果を発信するとともに、省庁やビジネス関係者等との多様なアクターとによる幅広いアウトリーチ活動を行ったことが評価できる。
- ・ 専門家が研究成果を単著にまとめ、その成果を踏まえて万博のような大規模イベントの運営改善に役立てている点を評価したい。専門知を実務家のみならず社会一般に共有する姿勢は、専門家の社会的責任を考えるうえでも重要な事例である。
- ・ サプライチェーンにおける人権問題に関する専門知を実際のビジネスでの実践に生かすため、国際的にも開かれた場である大阪・関西万博という機会を活用し、経済界との対話の場を設けたことは、時宜にかなった試みとして評価できる。
- ・ 大阪でのセミナーに加え、タイ・バンコクにおいて、気候変動危機をテーマとする人権デュー・ディリジェンスの実践型セミナーを開催したことは、国境を越えた実務的なアウトリーチとして評価できる。

評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

グローバルバリューチェーンや貿易・流通に関し国際機関との国際共同研究を実施する取組み

- グローバル・バリューチェーン（GVC）研究を先導する**アジア開発銀行（ADB）、対外経済貿易大学（UIBE）GVC研究院、世界経済フォーラム（WEF）、世界貿易機関（WTO）、アジア経済研究所の5機関が共同刊行**。第5号は「再グローバルゼーション」に焦点を当て、包摂性、レジリエンス、持続可能性を向上させる方法でGVCを再考。「**経済地理シミュレーションモデル（IDE-GSM）**」で用いるデータベースをもとに、経済地理データ、生産性データの知見を有するRIETIと共同研究を実施、東アジア地理情報データベースを拡充（2025年8月に覚書締結）
- 経済産業研究所（RIETI）と国際ワークショップを共同開催し、中国経済が直面する中長期課題および相互依存関係にある日本経済への潜在的インパクトを議論。AIとロボティクスによる生産性に関する共同研究に発展。
- 2025年4月に、**国際機関の内陸開発途上国国際研究所（ITTLLDC）と、ウズベキスタンの経済回廊に係る共同研究の覚書を締結**。経済地理シミュレーションモデル（IDE-GSM）を用いて、二重内陸国でありながら投資成長を続けるウズベキスタンの経済回廊を分析し、他の内陸国への政策的示唆を示した。

業績評価委員による評価コメント

- ・ アジア経済研究所は日本を代表するGVC研究の拠点であり、さまざまな視点からGVCにアプローチできる人材を擁している。この人材の厚みを生かした国際機関や他の研究機関との共同研究は、アジ研の高い国際的研究ハブ機能を示すものといえる。
- ・ 従来のGVC分析で明示的に考慮されてこなかった地政学的緊張や気候変動への対応などへ分析対象と範囲を広げている点が、特に高く評価される。
- ・ GVC Development Reportの作成は、アジ研が長期的に維持してきた、大学や民間企業では実施し難い研究プロジェクトの一つである。この長期的な研究蓄積は、アジ研ならではの強みとして高く評価できる。
- ・ GVC研究とIDE-GSMを用いた研究は、サプライチェーンの強靱性や経済安全保障など、今日の重要な政策課題を扱っている。アジ研がこれらの分野における世界的な研究拠点として注目を集める要因となっている。

評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

ERIA及び東アジア16カ国の研究機関との関係深化

- **ERIAを支える東アジア16カ国の研究機関ネットワーク（RIN）における機関間の研究交流の深化**を目的に2020年度からワークショップを開催。2025年度は世界的な不確実性の高まりを踏まえ、「**世界貿易の混乱の中で東アジアの未来を導く**」をテーマに政策検討につながる幅広い意見交換や有意義な議論を生み出すことを目的に、RIN機関およびERIAと共にオンラインワークショップ(全6回(8月6、26日、9月19日、10月17、30日、11月21日))を**アジ研が企画して開催**。
- **RIN機関との関係強化**を目的に、フィリピンのRIN機関である Philippine Institute for Development Studies(PIDS)からRafaelita M. Aldaba名誉研究員(元貿易産業省次官)とアテネオ・デ・マニラ大学から経済学部教授の2名を招聘。Reciprocal TariffsやGoeconomics等をテーマに**被招聘者とアジ研研究者11名で意見交換を実施**。

業績評価委員による評価コメント

- 東アジア・東南アジアの研究機関との交流が着実に深化している。
- RINとの関係が実質的に強化されているため、学術情報プラットフォームとしての機能を深化させている。
- ERIAは日本がその運営や活動に貴重な貢献をしてきた国際機関であり、東アジア諸国との研究ネットワーク構築を進めるのにこの機関を活用することは効果的かつ有用であると考える。
- 2020年度から継続するRINオンラインワークショップを、2025年度には「世界貿易の混乱の中で東アジアの未来を導く」をテーマとして全6回開催したことは、世界的な不確実性の高まりに対応した時宜を得た取組である。
- これまで実施されてきた研究企画は、学術的にも実務的にも重要である。このような取組は、アジアにおける研究ハブ機能を持つアジ研だからこそ可能なものであり、持続的な研究交流として評価できる。

評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動（意義が大きい活動に関する評価）

学術ネットワーク活動のうち、評価軸の観点から評価できるものとして、複数の委員が挙げた活動と評価

アジア情報研修

- アジ研と国立国会図書館の司書が講師となり、毎年、アジア関連情報の収集方法を講義・実習する研修をアジ研図書館で実施
- 教育機関・公共図書館の司書や研究者のスキル向上に貢献するとともに、参加機関との連携を強化
- 不安定な西アジア（中東）地域を題材にすることで、変動する世界情勢を読み解く実践力を養成。参加者からは、「今後の研究に生かすことができる充実した内容」等と高評価を得た

資料展「中東の紛争を知るために」

- 中東コレクションから、約200点を選定。パネルやキャプションには「解説がわかりやすい、関連する資料を探しやすい」等の反響
- 本展を機に初めてアジ研図書館に来館した人数は112人に上った

学生向け見学ツアー

- 学部生・院生に対する図書館の利用促進を強化。新聞マイクロフィルムや大判地図などの閲覧を盛り込み、来館により得られる新たな資料体験を提供

業績評価委員による評価コメント

- ・ アジア経済研究所図書館のアジア情報研修が所蔵コレクションを社会的ニーズに応じて公開・発信する上で重要な人材育成事業である。
- ・ 学部生・院生に対する見学ツアー、近隣の中高生向け企画などの取組みが研究の裾野を広げる上で重要である。
- ・ アジ研図書館と国立国会図書館の司書が講師となり、教育機関・公共図書館の司書や研究者を対象に、アジア関連情報の収集方法を講義・実習する研修を継続している点は意義が大きい。
- ・ 不安定な情勢が続く西アジア・中東地域を題材としたことは、参加者が変動する世界情勢を読み解くための実践的な情報収集能力を身に付けるうえで有用である。